

高齡化社会とペット市場

朴 恵子

＜高齡化社会とペット市場＞

近年、中国でも高齡者社会が叫ばれています。遼寧省では、1996年から高齡化社会に突入したといわれています。2017年末現在の遼寧省全域での総人口は4,232万人で、このうち65歳以上の高齡者は608万人と14.37%を占めます。

遼寧省でも、瀋陽市や大連市は高齡者が多いといわれています。大連統計局によると、大連市の2017年末における総人口は594.7万人で、60歳以上の高齡者は全市で148.6万人にのぼります。人口全体の2割以上を占めています。

＜拡大するペット市場＞

進む高齡化社会と同様、ペット市場も急増しています。

中国におけるペット市場の規模について、2014年には719億元だったのが、2018年末には1,708億元に達しています。中国のペット市場が急激に拡大した要因としては、収入が増加していることにあわせ、高齡化社会も大きく関係しています。80後や90後は結婚しても核家族を望むため、高齡世帯が増加。その高齡世帯はペットを家族の一員として迎え入れていることから、ペットに費用をかける傾向があります。

また民間調査会社の速途研究院によると、ペットを飼っている人のうち、40%が25歳から35歳、30%が45歳以上だといいます。働き盛りのストレスを抱えた世代と、子供が独立してしまった世代の多くがペットを飼っているという報告がありました。ペット市場の拡大が進んだ背景にあるのは、こういった世代の心を癒していたのだと思います。

このほかのペット市場が拡大した要因として、インターネット通販サイトでの購入が挙げられます。大手インターネットサイトの「京東」でもペット専用ページが開設されており、

ドッグフードやキャットフード、シャンプー剤やおやつ、歯磨きや美容品など、各種ペット用品が販売されています。



京東集団の研究院によると、ネット通販でペット用品を購入する地域が多いのは、北京市、広東省、上海市、江蘇省、四川省だといえます。いずれも高齡者の比率が低くなく、収入の高い地域であることがわかります。

高齡化社会と聞くと、サービスがまだ十分でないこと、介護してくれる人が身近にいないなど、厳しい現実を耳にします。中国でも、再雇用で仕事に就く老人がいるとはいえ、日本ほど一般的でもありません。そんな生活のなかでペットを飼うということは、慰めでもあり、安らぎでもあり、家族にもなります。

高齡化を支える市場は、介護市場だけでなく、温かみを感じるモノやサービスも十分支えられるのではないのでしょうか。私自身、まだ高齡者にはまだ遠いため、高齡化社会を真から理解していません。ただ、自分が将来高齡者となった時必要なもの考えた場合、やはり人の温かさだったり、優しさを感じられるものだったり…。実は身近にあるのではないかと思います。

- ※ 高齡化社会：国際連合の定義では、65歳以上の老年人口の比率が総人口の7%を超えた社会を指す。14%を超えると高齡社会という。日本では1970年に7%を超えた。
- ※ 80後：1980年代生まれを指す。
90後：1990年代生まれを指す。

【各地域のGDPと人口・高齡者数】

65 (北京は60) 歳以上

都市名	2017年GDP		2017年末人口		
	GDP(億元)	成長率(%)	総人口(万人)	高齡者(万人)	高齡者比率(%)
北京市	28,000	6.7	2,170.7	358.2	16.5
広東省	89,900	7.5	11,169.0	962.6	8.6
上海市	30,133	6.9	2,418.3	345.8	14.3
江蘇省	85,900	7.2	8,029.3	1,073.2	13.4
四川省	36,980	8.1	8,302.0	1,181.9	14.2
大連市	7,363	7.1	594.7	148.7	25.0